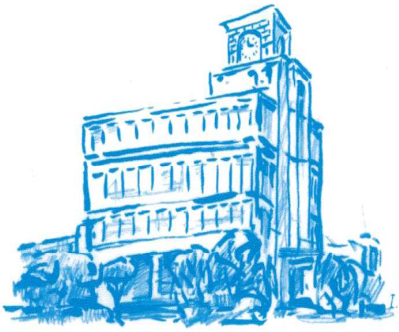
伊丹市立総合教育センターだより

総合

令和2年(2020年)8月号　(№214)

授業の見方

伊丹市立総合教育センター
所長　永嶺　香織



明治時代初期にはじまった授業研究は、日本の学校文化として脈々と受け継がれてきました。近年では「日本の授業研究」は、海外の研究者や学校も評価し、「レッスンスタディ」の名で実施されています。

楽しくてわかりやすい授業、子どもが主体的に学び、子ども自身が学びを深めていく授業を創造するための創意工夫は教師の本分です。学年や教科等の枠を越え、教師が共に学ぶことができる協働的な取組は、子どもの学びの質を高めていく重要な役割を果たしています。指導力を高め、授業改善を図っていくことが「日本の授業研究」です。

みなさんは、研究授業や公開授業を参観する際に、今日の授業は何に焦点を絞って見ればよいのかと悩んだり、授業を見る目を鍛えたいと感じたりしたことはありませんか。世間には、研究者や実践者が示している授業の見方に関する書籍が多数あり、いつでも学ぶことができます。これらを読むと、授業の見方は様々あって1つの型があるわけではないということがわかります。授業の見方は様々あって当然なのですが、大切なのは、常に見方を鍛える努力をすることです。

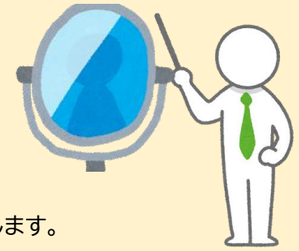
鍛えるためのポイントは2つです。1つは、授業を見る自己の視点の特徴を把握することです。つまり自分はどこに焦点をおいて授業を見ているかを自覚することです。もう1つは、授業は生き物と言われるように千変万化するものですから、狭い範囲で授業を捉えるのではなく、広い見方をすることです。

私も、書籍をとおして自分なりの授業を見る視点を養い、事後協議等で先生方の意見を聞き、自分の参観記録と比較するといった作業を行うことで、自分自身の授業を見る視点の特徴に気づき、新たな学びを得ることがよくあります。

授業の見方を鍛えることは、自身の授業の質を高める手立てとなります。見方を鍛えることで自分の授業を捉え直し、さらに実践を積む、この繰り返しが力量を高める営みになると思います。

「授業の見方」 教師としての実践を変える！ 教師こそ主体的問題解決学習に取り組む

他者の授業から学ぶ

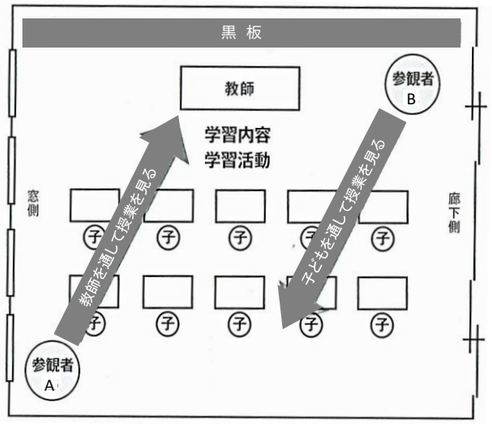


他者の授業は自分の授業を映し出す**鏡**のようなものです。

他者の授業を適切に見る「見方」は、授業の隠れた意図、**授業改善の本質**を見抜く力を磨きます。

その見る力で他者の授業から得たものは、**自身の授業改善の実践**に**直結**します。

1. 授業を見る2つの視点

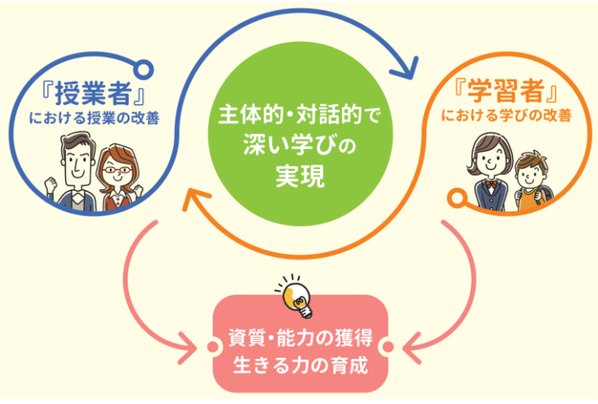


A 授業者である教師を通して授業を見る視点
板書を中心に教師の指導の手立てがよく見れます。
子どもと同じ目線で教師、授業を見ることができます。

B 学習者である子どもを通して授業を見る視点
子どもの表情がよく見え、 意欲などの情意的な面がよく見えます。
教師と同じ視線で子ども、授業を見ることができ、もし自分ならこうするなど、自分の授業と比較しながら見ることで、子どもの反応を予想したり、期待して見ることができます。

抜け落ちがちなのは、子どもを通して「授業を見る」
↓
授業を通して実現した子どもの姿が、教師のどのような指導の仕方、手だてによって生まれたかを見抜く視点が必要

澤井 陽介 著　東洋館出版社
授業の見方―「主体的・対話的で深い学び」の授業改善 より



授業者と学習者の視点の往還が、
主体的・対話的で深い学びを実現させる

- 授業者の授業改善自体を目的とした場合
  ⇒ 子どもの思考や関心から遊離した授業になる可能性がある。
（例えば、指導案の完成度は高いのに子どもの学びが不十分であったりずれた方向に向かった授業）
- 子どもの学びにだけ焦点を当てた場合
  ⇒ 授業でどのような力を身につけさせようとしていたかが不明確になる可能性がある。

授業者の視点と学習者の視点は，どちらか片方が重要というのでなく，**双方を往還**することが必要です。
すなわち，授業者による授業の改善の視点と学習者における学びの改善の視点が往還することが主体的・対話的で深い学びの実現につながっていきます。

文部科学省　国立教育政策研究所 NIER
「主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について（検討メモ）」 より

2. 2つの視点で見る項目

「もっと学んで成長したい」「学んだことで成長できた！」と背伸びをした状態にさせること

情報を基にして比較・関連付けたり総合したりしながら事象の特色や意味を考察する方向に向かう、根拠や理由付けを明確にして自分の考えを説明する方向へ向かう状態

	授業改善に向けた『学習者』の視点	授業改善に向けた『授業者』の視点
主体的な学び	それが子どもの日常生活や問題関心につながったか？ ● 学びことに興味や関心を持つ 興味・関心を持たせるには？ ● 自己のキャリア形成の方向性と関連付ける ● 見通しをもつ ● 粘り強く取り組む ● 自己の学習活動を振り返って次につなげる 	● 既習事項を振り返る ● 具体物を提示して引きつける ● 子どもが明らかにしたくなる学習課題を設定する ● 子どもが自らめあてをつかむようにする ● 学習課題を解決する方向性について見通しを持たせる ● 子どもが自分の考えを持つようにする ● 子どもの思考を見守る ● 子どもの思考に即して授業展開を考える ● 子どもの考えを生かしてまとめる ● その日の学びを振り返る ● 新たな学びに目を向けさせる
対話的な学び	● 子ども同士の協働を通じ,自己の考えを広げ深める ● 教師との対話を通じ，自己の考えを広げ深める ● 地域の人との対話を通じ，自己の考えを広げ深める ● 先哲の考え方を手掛かりに考える	● 思考を交流させる ● 交流を通じて思考を広げる ● 協働して問題解決する ● 板書や発問で教師が子どもの学びを引き出す
深い学び	● 各教科等の特質に応じた「見方・考え方」を働かせる ● 知識を相互に関連付けてより深く理解する ● 情報を精査して考えを形成する ● 問題を見いだして解決策を考えたり，思いや考えを基に創造したりすることに向かう	● 資質・能力を焦点化する（つけたい力を明確にする） ● 単元や各授業の目標を把握する ● ねらいを達成した子どもの姿を具体化する ● 教材の価値を把握する ● 単元及び各時間の計画を立てる ● 目標の達成状況を評価する

物事を大きく捉える概念を形成させ、生きて働く知識、子どもが後々使える知識にしていく過程

主体的・対話的で深い学びを実現する授業改善の視点について

3. 研究授業のすすめ

授業の内容と方法がセットになって、その授業の視点が決まる
- 研究仮説を設定し、期待する子どもの姿を具体的に描くことで、授業の見方がハッキリする。
- 研究主題に迫れるように教師が手立てを工夫することではじめて、その授業の分析の視点が明確になる。

授業を見なければ、授業は変わらない
授業を見せなければ、授業は変わらない
授業研究でしか、授業は変わらない

新規採用教員訪問指導から

今年度はコロナ禍ではありますが、新規採用教員の指導力及び実践力の向上をめざし、訪問指導を7月上旬～8月上旬にかけて実施しています。

若手教員の先生方、授業力向上（カリキュラム）支援センターコンサルタントからのメッセージを参考に、授業力の向上を図りましょう。

山田　恵子　コンサルタントより

本物の教師を目指そう

一生懸命さが伝わってくる若い先生方の熱意あふれる授業は、日々の真摯な取り組みを重ねることにより、一人ひとりが輝く達成感あふれる本物の授業につながっていきます。児童生徒の笑顔に向かって前進しましょう。

〇学習する必然性を未来につなげる。

なぜ、学ばなければならないか意欲付けを導入で伝える。

〇発問・指示は適切にそして必ず確認、評価する。

発問　ねらいに直結する言葉を児童生徒が答えられるよう、教師は、発問する。

指示　指示した内容を全員理解し、行動できているか必ず確認する。

〇理解を深めるには五感（視覚、聴覚、触覚、味覚、臭覚）を使い繰り返す。

〇板書はその時間の児童生徒の思考の過程を表し、授業の流れを記録する。

〇1時間の授業の後に何がわかり、成長したか評価する。

後藤　猛虎　コンサルタントより

コロナ禍ですが、授業を参観して、どの学級も落ち着いた雰囲気で授業に取り組んでいるのに感心しました。

1. 本時の目標を意識して

1単位時間で児童生徒に何を学ばせたいのか。目標を絞りましょう。例えば、「ローマ字を正しく丁寧に書くことができる」には、2つの目標があります。絶対学ばせたいのはどっちでしょうか。ねらいを絞ると授業でやるべきことがはっきりしてきます。

2.「まねる」から始めよう

教師は日々学び続けなければなりません。「学ぶ」の言葉は「まねる」から来ていると言われます。身近な先輩をまねることから始めましょう。そして、まねが上手になったらまねを自分流にアレンジしてみましょう。それができるようになったら本物です。

※困ったときには総合教育センター5階へ行きましょう。

発　行　伊丹市立総合教育センター
所在地　〒664-0898　伊丹市千僧１丁目１番
TEL 072-780-2480
FAX 072-780-2482
開館日　月・火・木・金　：9:00～21:00
水・土　：9:00～17:00
休館日　日曜・祝日、年末・年始
総合教育センターHP　http://www.itami.ed.jp/

＜教育相談＞

電話　072-772-6171（電話相談）
072-780-2484（来所相談）

お子様に関する様々な悩みや課題、問題等の相談に応じています。

（来所・電話相談）

月・火・木・金：9:00～21:00
水・土　：9:00～17:00

こまったことがあったらすぐ相談

兵庫県教育委員会
ひょうごっ子SNS悩み相談
LINEを使って利用できます